

気象変動 備え呼び掛け 農林中金山形支店など 農業者セミナー

【山形】農林中央金庫山形支店と県農業法人協会、県地域営農法人協議会は4日、山形市のホテルメトロポリタン山形で第9回農業者セミナーを開いた。「気象・天候の変動と農業」をテーマに講演や情報提供を行う内容で、生産者ら約80人が出席した。

仙台市出身の気象予報士、酒井紀子さんが講演し「地球温暖化がこのま

ま進めば、日本の100年後の気候は現在よりも3度程度上昇する。雪よりも雨の量が増え、大型で強い台風や集中豪雨などの発生頻度も高まる」と述べた。

果樹では着色や発芽・開花不良、果実の軟化、家畜では熱中症による死亡や乳生産量の減少、野菜では収穫期が早まることや、生育障害などの影響が懸念されるとした。

酒井さんは「リンゴやミカンなど、作物によっては栽培適地が移動する可能性もある」と指摘。

「品種改良など当面の適応策では効果は限られる。将来を見越した、より効果的な技術開発が必要になっている」と早期対応を促した。

スマート農業や日本農業法人協会、日本農業経営大学校についての情報提供も行った。